

夏期テキスト

必修編

# 国語

中学 **3** 年

漢文・漢詩の知識や  
付属語等の問題集

中3国語 | 中学夏期テキスト[必修編]

確認問題

○ 次の漢文と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

① 政有三品。王者之政、化之、<sup>②</sup>覇者之

政、威之、<sup>③</sup>疆者之政、魯之。夫此三者、

各有所施、<sup>④</sup>而化之為貴矣。

〔説苑〕より

\* 政に三品有り。王者の政は之を化し、、<sup>\*</sup>疆者の政は之を魯かす。夫れ此の三者、各施す所有り、而して之を化するを貴と為す。

(注) 政 政治。 品 等級。

化 人民を徳で教え導くこと。

威 権威で恐れさせること。

疆者 強者のこと。

魯 脅迫して服従させること。

貴 貴いこと。

問1 返り点 — 線①「政有三品」に、返り点をつけなさい。

政有三品

問2 書き下し文 — 線②「覇者之政、威之」の部分を書き下し文に直して書きなさい。ただし、三文字目の「之」は平仮名で書くものとします。

問3 返り点 — 線③「各有所施」の部分に返り点をつけたとき、適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 各有所施 イ 各有所施
ウ 各有所施 エ 各有所施

問4 — 線④「而化之為貴矣」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 置き字 この部分を書き下し文にしたとき、読まない漢字があります。その漢字一字を抜き出しなさい。

(2) 送り仮名・返り点 この部分に、送り仮名と返り点をつけなさい。

而化之為貴矣

要点のまとめ

1 漢文の知識

1 送り仮名：漢字の右下に、片仮名で小さく示した文字。 例) 曰

2 返り点：漢字の左下につけ、読む順序を表す符号。

・レ点：すぐ下の一字から、上に返って読む。 例) 聞道

・一・二点：二字以上を隔てて、上に返って読む。 例) 君子

読む順序：子→路→君→子→問

2 漢詩の知識

1 漢詩の形式

Table with 2 columns: 字数/句数 and 句数. Rows: 五字 (五言絶句, 五言律詩), 七字 (七言絶句, 七言律詩).

2 構成：絶句は「起句・承句・転句・結句」で構成される。

3 押韻：句末に同じ響きの字を用いる。 例) 五言詩→偶数句末

4 对句：形や意味の似た句を並べる。 例) 七言詩→第一句と偶数句末

基本問題

1 次の漢詩と解説文を読んで、後の問いに答えなさい。 (兵庫改)

事に感ず 武 韞 感レ事 武 韞

花開けば

花 開ケバ 蝶 満チ枝ニ

花謝れば蝶還た稀なり

花 謝メバ 蝶 還タ稀ナリ

惟だ旧巢の燕有り

惟 有リ 旧 巢 燕

主人貧なるも亦た帰る

主 人 貧ナルモ 亦 帰ル

第一、第二句では、花が開くと枝に蝶がたくさん集まり、花がしぼんでしまふと蝶はめつたに姿を見せなくなることを、また、第三、第四句では、ただ燕は今年も同じ巢に帰ってくるということを述べている。

問1 漢詩の形式 この漢詩の形式を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 五言絶句 イ 五言律詩
- ウ 七言絶句 エ 七言律詩

問2 書き下し文  に当てはまる書き下し文を書きなさい。

( )

問3 返り点 —— 線「有、旧巢、燕」に返り点をつけなさい。

有、旧巢、燕

2 次の漢文の書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。 (山口改)

楊朱の弟を布と曰ふ。素衣を衣て出づ。天雨ふる。素衣を解ぎ縮衣を衣て反る(帰つてきた)。其の狗知らずして、迎而吠之。楊布怒りて将に之を扑たんとす(たたこうとした)。楊朱曰はく、子扑つこと無かれ(たたいてはいけない)。子も亦猶ほ是くのごとくならん(同じことだろう)。嚮に(出かける前に)汝の狗をして(おまえの狗が)白くして(白い姿で)往き(出かけ)、黒くして(黒くなって)来たらしめば(帰ってきたら)、豈に能く怪しむこと無からんや。(どうして怪しまないでいられようか、いや、怪しむよ。)と。

(注) 楊朱 Ⅱ 人の名前。 布 Ⅱ 人の名前。楊布のこと。

素衣 Ⅱ 白い着物。 縮衣 Ⅱ 黒い着物。 子 Ⅱ あなた。

〔列子〕より

問1 送り仮名・返り点 —— 線①「素衣を解ぎ」は漢文「解素衣」を書き下し文に改めたものです。書き下し文を参考にして、送り仮名と返り点をつけなさい。

解 素 衣

問2 書き下し文 —— 線②「迎而吠之」の部分は漢文のままになっています。この部分を書き下し文に直して書きなさい。

( )

問3 会話文 —— 線③「無からんや」で終わる会話文は、どこから始まっていますか。始まりの部分、五字で抜き出さなさい。

[ ]

演習問題

1 次の漢詩を読んで、後の問いに答えなさい。

〈宮崎改〉

秋思 張籍

洛陽城裏見秋風

洛陽城裏秋風を見る

欲作家書意万重

意ひ万重

復恐忽忽說不尽

復た恐る忽忽として説きて尽くさざるを

行人臨發又開封

行人發するに臨みて又封を開く

(注) 洛陽城裏(故郷を離れた)洛陽のまちの中。家書(家への手紙)。

意万重(思いがあれもこれもと重なる)。恐(心配する)。

忽忽(あわただしい様子)。說不尽(言い残しがある)。

行人臨發(手紙を預けた)旅人が出發するとき。

問1 漢詩の形式 この漢詩の形式として適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 五言絶句

イ 五言律詩

ウ 七言絶句

□

問2 書き下し文 返り点と送り仮名をもとに、□に当てはまる書き下し文を書きなさい。

( )

問3 内容理解 線「開封」(手紙の封を開く)とありますが、このとき

の作者はどのような気持ちだと考えられますか。二十字以内で書きなさい。

2 次の漢文の書き下し文と現代語訳とを読んで、後の問いに答えなさい。

〈愛知改〉

荀巨伯、遠看友人疾、胡賊の郡を攻むるに値ふ。友人、巨伯に語り

て曰はく、「吾、今死なんとす。子、去るべし。」と。巨伯曰はく、「遠く来た

りて相視るに、子は吾をして去らしめんとす。義を敗ひて以て生を求むるは、

豈に荀巨伯の行ふ所ならんや。」と。賊既に至り、巨伯に謂ひて曰はく、「大軍

至りて、一郡尽く空しきに、汝何なる男子にして、敢へて独り止まれるや。」と。

巨伯曰はく、「友人疾有り、之を委つるに忍びず。寧ろ我が身を以て友人の命

に代へん。」と。賊相謂ひて曰はく、「我輩無義の人にして、有義の国に入らん

や。」と。遂に軍を班らして還る。一郡並びに全きを獲たり。

(注) 荀巨伯(漢の時代の人)。胡(北方または西方の異民族)。

荀巨伯は、はるばる友人の病氣を見舞ったが、折しも胡の賊軍がその郡に攻

め込んできた。友人は、巨伯に向かって、「私は、今にも死ぬ身だ。君は、かま

わず逃げてくれ。」と言った。巨伯は、「はるばると見舞いに来たのに、□。

人の道を捨ててまで生き延びようとするなど、どうしてこの荀巨伯にできよう。」

と言った。やがて賊軍がやってきて、巨伯に向かって、「大軍が押し寄せて、

郡じゆうが空っぽになってしまっているのに、おまえはいったいどういう男な

のだ、ことさら一人だけ踏みとどまっているとは。」と尋ねた。巨伯は、「友人

が病氣にかかっている、見すてて逃げるには忍びない。どうか私の身と友人の

命をひきかえにしてもらえないだろうか。」と答えた。賊兵は互いに顔を見合

わせて、「我らのような人の道を知らぬ人間が、どうして人の道を重んずる国

□

に入れようか。」と言った。そのまま軍を引いて帰っていった。郡全体が無事ですんだ。  
〔世説新語〕より

問1 書き下し文 —— 線① 「遠<sup>ト</sup>看<sup>シ</sup>友人<sup>ノ</sup>疾<sup>ヲ</sup>」を書き下し文に直して書きなさい。

問2 現代語訳 —— 線② 「子は吾をして去らしめんとす」の現代語訳として [ ] に当てはまる適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 君は私に賊軍と戦えというのか
- イ 君は私から離れていくのか
- ウ 君はまだ私の身が心配なのか
- エ 君は私に逃げろというのか

問3 返り点・送り仮名 —— 線③ 「義を敗ひて以て生を求むるは」の部分、漢文では「敗義以求生」と書かれています。この部分に、送り仮名と返り点をつけなさい。

敗 義 以 求 生

問4 内容理解 —— 線④ 「我輩無義の人にして、有義の国に入らんや。」に込められた心情として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア とまどう気持ち。
- イ うらやむ気持ち。
- ウ 恥じ入る気持ち。
- エ 残念がる気持ち。

問5 内容理解 この文章の内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 荀巨伯の病気見舞いにはるばるやって来た友人が、折しも攻め込んできた賊軍を説得し、巨伯と郡の人々を危機から救った。
- イ 友人の病気見舞いによってきた荀巨伯は、胡の賊軍が攻め込んできた後も逃げ出さず、そのまま友人を守るためにとどまった。
- ウ 胡の賊軍が攻め込んできたことを知った病人が、見舞いに来てくれた友人の荀巨伯を助けるため、自ら人質になると申し出た。
- エ 攻めてきた胡の賊軍は、自分の家に一人で残っていた荀巨伯から郡内に宝はないと教えられ、そのまま帰っていった。

〔3〕 次の漢文の書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。  
〔石川改〕

田子方、老馬を道に見、喟然として志すあり。もつて其の御に問ひていはく、  
心を痛めてため息をついた 御者

「これ何の馬ぞや。」と。其の御いはく、「これもと公家の畜なり、老罷して用  
役所 老い衰えて

を為さず、出してこれをひきぐ。」と。田子方いはく、「少くして其の力を貪り、老  
散々利用し

いて其の身を棄つること、仁者は為さざるなり。」と。東帛もつてこれをあがなふ。  
徳のある人 買取った

罷武、これを聞き、心を帰する所を知る。  
年老いた武人たち この人こそ心を寄せられる人だと思った

(注) 田子方＝魏の国の人。  
 東帛＝白絹を巻いて束にしたもの。当時、とても高価であった。

問1 主語 —— 線① 「問ひていはく」の主語として適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 田子方
- イ 老馬
- ウ 御
- エ 罷武

問2 返り点 —— 線② 「其の力を貪り」は、漢文では「貪其力」と書かれています。この部分に、返り点をつけなさい。

貪 其 力

問3 内容理解 —— 線③ 「心を帰する所を知る」とありますが、年老いた武人たちがこのように思ったのはなぜですか。次の文の [ ] A・B に当てはまる言葉を、現代語で書きなさい。

田子方の [ ] A という行動から、彼が [ ] B という徳のある人だと分かったから。

A ( )

B ( )



言語 1

漢字の成り立ち・部首

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 川の水が澄む。
- ② 彼は柔和な性格だ。
- ③ 説明に納得する。
- ④ 命の尊さを論ず。
- ⑤ 改まった口調。
- ⑥ 毎月の出費を抑える。
- ⑦ ページを繰る。
- ⑧ 非常識も甚だしい。
- ⑨ 論理に矛盾がある。
- ⑩ 自分の意見を貫く。
- ⑪ 謙虚な姿勢。
- ⑫ 俊敏な身のこなし。
- ⑬ 卓越した技量。
- ⑭ 週末の台風に備える。
- ⑮ 父に怒られて黙る。
- ⑯ シャワーをアビル。
- ⑰ コウセキをたたえる。
- ⑱ 脱出をココロミル。
- ⑲ 家にシヨウタイする。
- ⑳ 大雨がフル。
- ㉑ 段ボール箱をハコブ。
- ㉒ シュクジを述べる。
- ㉓ ギムを果たす。
- ㉔ 毎朝のシユウカン。
- ㉕ 希望にモエル。
- ㉖ 都心に家をウツス。
- ㉗ 家路をイソグ。
- ㉘ 私のザユウの銘。
- ㉙ 光を反射するソザイ。
- ㉚ 改革のテイシヨウ者。

1 漢字の成り立ち 次の漢字の成り立ちを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 上  ② 首  ③ 洋
- ④ 戸  ⑤ 美  ⑥ 末
- ア 象形文字 イ 指事文字 ウ 会意文字 エ 形声文字

2 部首 次の漢字の部首の名前を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 炉  ② 焦  ③ 厘
- ④ 符  ⑤ 匿  ⑥ 敢
- ⑦ 隻  ⑧ 魅

ア のぶん イ きによう ウ あくび  
 エ ひへん オ ふるとり カ たけかんむり  
 キ れんが ク がんだれ ケ かくしがまえ

3 部首 次の各組の漢字に共通する部首の名前を、平仮名で書きなさい。

- ① 干 可 皮 夜
- ② 央 舌 果 者
- ③ 亼 反 白 兆
- ④ 貝 倉 到 半

言語 2 画数・筆順・書写

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 遠くの山を眺める。
- ② 足腰を鍛ええる。
- ③ 新作を披き露する。
- ④ 友人を励まます。
- ⑤ 包丁でねぎを刻むむ。
- ⑥ 天井から雨が漏れれる。
- ⑦ 優勝旗を掲げげる。
- ⑧ 事態の打ひ開をひらく。
- ⑨ 名残を惜しむ。
- ⑩ 水を口に含みむ。
- ⑪ 厳密に区別する。
- ⑫ 法を遵守する。
- ⑬ 敵の様子を探さる。
- ⑭ 人物を描え写する。
- ⑮ 時間に余ゆをもつ。
- ⑯ 荷物がトドク。
- ⑰ 畑をタガヤス。
- ⑱ 天然シゲンの採掘。
- ⑲ 本を山のようにツム。
- ⑳ 春をツゲル鳥。
- ㉑ 試合のエイセイ中継。
- ㉒ セイケツな寝具。
- ㉓ ギャクの方向に進む。
- ㉔ シュクシヤクした図。
- ㉕ 現場でハンダンする。
- ㉖ スクリーンにウツル。
- ㉗ ギュウニユウを飲む。
- ㉘ サイバンが終わる。
- ㉙ 雑誌のソウカン号。
- ㉚ 全員にデンタツする。

1 画数 次の漢字の総画数を、算用数字で答えなさい。

- ① 級
- ② 海
- ③ 危
- ④ 学
- ⑤ 臣
- ⑥ 遠

2 画数 次の漢字のうち、総画数が他と異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 何
- ② ア 第
- ③ イ 医
- ④ イ 起
- ⑤ ウ 典
- ⑥ ウ 混
- ⑦ エ 近
- ⑧ エ 陸

3 筆順 次の漢字の黒い部分は何画目に書きますか。算用数字で答えなさい。

- ① 妻
- ② 党
- ③ 建
- ④ 奮
- ⑤ 将
- ⑥ 布

4 書写 次の行書で書かれた漢字の部首を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。また、楷書とは筆順が明らかに変わる部首をもつ漢字を三つ選び、番号で答えなさい。

- ① 景
  - ② 神
  - ③ 計
  - ④ 桃
  - ⑤ 物
  - ⑥ 緑
- ア しめすへん     イ ごんべん     ウ きへん
- エ いとへん     オ くさかんむり     カ うしへん
- 筆順の変わる漢字

言語

3

同音異字・同訓異字・同音異義語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 入部を促す。
- ② 新記録に挑む。
- ③ 重い空気が漂う。
- ④ 丁寧に扱う。
- ⑤ はさみで布を裁つ。
- ⑥ 心が和む光景。
- ⑦ 新聞に掲載される。
- ⑧ 急成長を遂げる。
- ⑨ 昔の面影が残る家。
- ⑩ 含蓄のある言葉。
- ⑪ 戸外に出て遊ぶ。
- ⑫ 書齋で本を読む。
- ⑬ 鍛錬を積む。
- ⑭ 不朽の名作。
- ⑮ 貴重品を預ける。
- ⑯ 頬を赤くソメル。
- ⑰ 町をサンサクする。
- ⑱ 著名人を家にマネク。
- ⑲ 窓口をモウケル。
- ⑳ 異議をトナエル。
- ㉑ 雨で日程がノビル。
- ㉒ セキニン感が強い。
- ㉓ 川の流にサカラウ。
- ㉔ 体育祭のジュンビ。
- ㉕ 観客のハンノウ。
- ㉖ エイガ館に行く。
- ㉗ 需要とキョウキユウ。
- ㉘ サイフを落とす。
- ㉙ ソウゾウを絶する。
- ㉚ 書類をフクシャする。

1 同音異字

- ① グウ
  - ② レツ
- 次の——線の片仮名を漢字に直しなさい。
- A グウ然の一致。
  - B 校庭の一グウ。
  - A 猛レツに忙しい。
  - B 細胞が分レツする。
  - A
  - B
  - A
  - B

2 同訓異字

- ① とる
- 次の——線の片仮名を漢字に直しなさい。
- A 打球をトる。
  - B この議題の決をトる。
  - C レントゲンをトる。
  - A
  - B
  - C

3 同音異義語

- ① ヘイコウ
  - ② ホシヨウ
- 次の——線の片仮名を漢字に直しなさい。
- A ヘイコウ線をたどる。
  - B ヘイコウ感覚を養う。
  - C ヘイコウして走る。
  - A
  - B
  - C

言語 4 熟語の構成・三字熟語・四字熟語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 屋根を瓦で覆う。
- ② カーテンが透ける。
- ③ 病状が快方に赴く。
- ④ 議長を委嘱する。
- ⑤ バスが循環する。
- ⑥ 妹の手を握る。
- ⑦ 健やかに育つ。
- ⑧ 腰を据える。
- ⑨ 喜びで胸が躍る。
- ⑩ 酸素が希薄だ。
- ⑪ 最新の設備を誇る。
- ⑫ 電話で注文を承る。
- ⑬ 稚拙な文章。
- ⑭ ごぎを敷く。
- ⑮ はさみを用いる。
- ⑯ 松の木をササエル。
- ⑰ 頭を深くタレル。
- ⑱ 褒められてテレル。
- ⑲ 会議でティアンする。
- ⑳ 手間をハブク。
- ㉑ エンゲキのサークル。
- ㉒ 人形をアヤツル。
- ㉓ わがままをユルス。
- ㉔ 機をオル。
- ㉕ 内容をヒハンする。
- ㉖ 駅前がサカエル。
- ㉗ 試合にコウフンする。
- ㉘ スガタを現す。
- ㉙ 父にソウダンする。
- ㉚ ノウと神経の働き。

1 熟語の構成 次の熟語と同じ構成の熟語を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 改札
- ② 永久
- ③ 国連
- ④ 空席
- ⑤ 加減
- ⑥ 不利
- ⑦ 堂々
- ⑧ 人造
- ア 未満
- イ 転々
- ウ 優劣
- エ 就寝
- オ 旧交
- カ 日没
- キ 模試
- ク 希望

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 三字熟語 次の□に「非・不・無・未」のいずれかを書き入れて、三字熟語を完成させなさい。(ただし、漢字は一度しか使えません。)

- ①  関心
- ②  安定
- ③  合理
- ④  完成

3 四字熟語 次の□に適切な漢数字を書き入れて、四字熟語を完成させなさい。

- ①  里霧中
- ②  方美人
- ③  三寒
- ④  拳画得
- ⑤  差万別
- ⑥  十人
- ⑦  色

4 四字熟語 「同工異曲」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 同じことをしたのに、別の結果になること。
  - イ 同じように見えても、一つだけ異なること。
  - ウ 受け手によって、別の印象になること。
  - エ 見かけは違っても、中身は同じこと。
-

言語 5

類義語・対義語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 青葉が目に鮮やかだ。
- ② 副作用を伴う。
- ③ 月が雲間に隠れる。
- ④ 体力を維持する。
- ⑤ 喉を潤す。
- ⑥ 心を慰める。
- ⑦ 厳かな音楽が流れる。
- ⑧ 和洋折衷の建築物。
- ⑨ 優れた歌唱力。
- ⑩ 人のいる気配がする。
- ⑪ 握手を交わす。
- ⑫ 無駄を省く。
- ⑬ 疲労が蓄積する。
- ⑭ 単身で赴任する。
- ⑮ 忍耐力が要る。
- ⑯ 八百屋をイトナム。
- ⑰ 美術のセンモン家。
- ⑱ イキオイがある。
- ⑲ ボールをナゲル。
- ⑳ ジョウケンが調う。
- ㉑ 合格はカノウだ。
- ㉒ チームをタバネル。
- ㉓ キンペンな人柄。
- ㉔ 野球のシンゼン試合。
- ㉕ ヒリヨウをまく。
- ㉖ 客の希望にソウ。
- ㉗ キヨウミをそそる。
- ㉘ ルールをヤブル。
- ㉙ マドから外を眺める。
- ㉚ ルールをヤブル。

1 類義語 次の各組が類義語になるように、□に共通して当てはまる漢字を書きなさい。

- ① スイ ② セツ
- ③ シ
- ④ イ ⑤ セイ
- ⑥ エン
- ⑦ 議 ⑧ 存 ⑨ 量 ⑩ 測 ⑪ 格 ⑫ 質 ⑬ 助 ⑭ 応 ⑮ 物 ⑯ 材
- ① □ □
- ② □ □
- ③ □ □
- ④ □ □
- ⑤ □ □
- ⑥ □ □

2 対義語 次の言葉の対義語になるように、□に当てはまる漢字を書きなさい。

- ① 必然 ↓ □ 然
- ② 積極的 ↓ □ 極的
- ③ 害虫 ↓ □ 虫
- ④ 先天的 ↓ □ 天的
- ⑤ 陽気 ↓ □ 気
- ⑥ 具象的 ↓ □ 象的

3 対義語 次の言葉の対義語を、漢字二字で書きなさい。

- ① 内容 ↓ □
- ② 解散 ↓ □
- ③ 原則 ↓ □
- ④ 保守 ↓ □
- ⑤ 建設 ↓ □
- ⑥ 模倣 ↓ □
- ⑦ 閉鎖 ↓ □
- ⑧ 重厚 ↓ □

言語 6 慣用句・ことわざ・故事成語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 希望者を募る。
- ② 顔の輪郭を描く。
- ③ 観察力が鋭い。
- ④ 夕日に映える山。
- ⑤ 慎重に行動する。
- ⑥ 形が違う容器。
- ⑦ 塩分を控える。
- ⑧ 速やかに移動する。
- ⑨ 声に抑揚がない。
- ⑩ 顔が喜びに輝く。
- ⑪ 光沢のある布地。
- ⑫ 自らの行いを省みる。
- ⑬ 万人の聴衆。
- ⑭ 役者が舞台に立つ。
- ⑮ 率直に意見を言う。
- ⑯ メンミツに調査する。
- ⑰ 船のソウジユウ。
- ⑱ 勝利にミチビク。
- ⑲ ムズカシイ問題。
- ⑳ 大皿に料理をモル。
- ㉑ カイキョを達成する。
- ㉒ 自分のソんザイ。
- ㉓ 話のスジが通る。
- ㉔ 事情をスイソクする。
- ㉕ 時間をツイヤス。
- ㉖ 地中海のエンガン。
- ㉗ キョウリに帰る。
- ㉘ 大がかりなソウチ。
- ㉙ ハチクの勢い。
- ㉚ バスのシャソウ。

1 慣用句 次の( )に当てはまる言葉を書き入れて、慣用句を使った文を完成させなさい。

- ① 自分の失敗を( )に上げて、弟を責める。
- ② お小遣いの残りが( )の涙ほどしかない。
- ③ 母が( )にかけて育てたばらが咲く。
- ④ 今日、テストがあるなんて、寝耳に( )だ。

2 ことわざ 次の□に当てはまる漢数字を書き入れて、ことわざを完成させなさい。

- ① 一寸の虫にも□分の魂
- ② □聞は一見にしかず
- ③ ローマは□日にしてならず
- ④ 三つ子の魂□まで

3 故事成語 次の故事成語の意味を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 他山の石
- ② 蛍雪の功
- ③ 杞憂
- ④ 一炊の夢
- ア 取り越し苦労。
- イ 苦労して勉学に励んだ成果。
- ウ 人生の栄華ははかないということ。
- エ 人のつまらない言行も、自分を磨く役に立つこと。

- ①
- ②
- ③
- ④

言語 7

言葉の単位・文の組み立て

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 林業に携<sub>レ</sub>わる。
- ② 旅館を営<sub>ミ</sub>む。
- ③ 悪事を企<sub>メ</sub>てる。
- ④ 図書館で閲<sub>シ</sub>覧する。
- ⑤ 寸暇を惜<sub>シ</sub>む。
- ⑥ 会社の円滑な運<sub>営</sub>。
- ⑦ 克<sub>ク</sub>明に描<sub>キ</sub>写する。
- ⑧ 健康を損<sub>ナ</sub>う。
- ⑨ 非難を浴<sub>ビ</sub>る。
- ⑩ 駅までの距<sub>リ</sub>離。
- ⑪ 朝飲んだ菓<sub>カ</sub>が効<sub>ク</sub>。
- ⑫ 象徴<sub>シ</sub>的な出来事。
- ⑬ バッタが跳<sub>ト</sub>ねる。
- ⑭ 湯が沸<sub>キ</sub>騰<sub>ト</sub>する。
- ⑮ 朗<sub>ラ</sub>らかな性格。
- ⑯ 楽器をエンソ<sub>ウ</sub>する。
- ⑰ チョゾウ庫にしま<sub>ウ</sub>。
- ⑱ 実力をハツ<sub>キ</sub>する。
- ⑲ ヤクソクを守る。
- ⑳ 頬が赤<sub>カ</sub>みをオビ<sub>ル</sub>。
- ㉑ タシカな足<sub>ド</sub>り。
- ㉒ もう終<sub>ワ</sub>ったの、宿<sub>ト</sub>題<sub>ハ</sub>。
- ㉓ 事件のハイ<sub>ケ</sub>イ。
- ㉔ スジミチが通<sub>ス</sub>る。
- ㉕ 人通りがタ<sub>エ</sub>ル。
- ㉖ 試験にソナ<sub>エ</sub>ル。
- ㉗ ゲンミツな調<sub>査</sub>。
- ㉘ キントウに分<sub>ケ</sub>る。
- ㉙ ジュウオウ無<sub>シ</sub>尽。
- ㉚ イチジルシイ変<sub>化</sub>。
- ㉛ 台風がハツ<sub>ツ</sub>する。

1 言葉の単位 次の各文を、例にならって文節と単語に分けなさい。

例 図書館で／本を／借りる。

- ① ひまわりの花が一斉に咲き始めた。
- ② 姉は植物を育てることがとても上手だ。
- ③ せみが鳴いているのは夏だけだ。

2 文の組み立て 次の——線が修飾している文節に——線を付けなさい。

- ① 妹は、ピアノを習<sub>ヒ</sub>たいと母に言<sub>ハ</sub>った。
- ② 細かい作業をして、目<sub>メ</sub>が疲<sub>カ</sub>れる。
- ③ おそらく彼はもう戻<sub>カ</sub>らないだろ<sub>ウ</sub>。

3 文の組み立て 次の——線の文の成分を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 寒いので、ストーブをつけた。
- ② 九月から新学期が始まる。
- ③ ほら、虹が出ていますよ。
- ④ 夕方から雨が激しく降った。
- ⑤ もう終わったの、宿題は。

ア 主語    イ 述語    ウ 修飾語    エ 接続語    オ 独立語

①     ②     ③     ④     ⑤

ヒント

1 言葉の単位：まず／で文節に分け、さらに細かく分けられるかどうか考  
える。 3 文の組み立て：主語は「何が（誰が）」、述語は「どうする・どん  
など」など、修飾語は「どのように」などに当たる文節。接続語は理由や条  
件を表したりする。独立語は他の文節と直接関係がない。

言語 8

単語の分類・自立語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 穏やかな顔つき。
- ② 自然の恩恵。
- ③ 弱点を克服する。
- ④ おもちやが壊れる。
- ⑤ 機械で制御する。
- ⑥ 道路を隔てる。
- ⑦ 可能性を示唆する。
- ⑧ ボールが転がる。
- ⑨ 外国為替市場。
- ⑩ 自由を享受する。
- ⑪ 巧みに操る。
- ⑫ 道を尋ねる。
- ⑬ 実現に努める。
- ⑭ 分別がつかない。
- ⑮ 手持ちの材料で賄う。
- ⑯ 車でオウフクする。
- ⑰ ボウエキによる黒字。
- ⑱ 平和にクラス。
- ⑲ ユウビン局に行く。
- ⑳ 今朝から頭がイタイ。
- ㉑ 手厚いカンゴ。
- ㉒ 道路のヒョウシキ。
- ㉓ お年寄りをウヤマウ。
- ㉔ 勉強にセンネンする。
- ㉕ ホウフな資源。
- ㉖ 猛練習にネを上げる。
- ㉗ ニガイ思い出。
- ㉘ 誕生日をイワウ。
- ㉙ お小遣いでタリル。
- ㉚ ゆっくり胸をソラス。

1 単語の分類 次の——線の単語の性質を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ・家に帰ってから、すぐに手を洗った。
- ア 自立語で活用する。 イ 自立語で活用しない。
- ウ 付属語で活用する。 エ 付属語で活用しない。

①  ②  ③  ④

2 品詞 次の——線の品詞名を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 緩やかな坂道を上る。
- ② ああ、あの人に会いたい。
- ③ 読みかけの本を閉じた。
- ④ たいしたけがではなかった。
- ⑤ 人数はかなり多いようだ。
- ⑥ 雪はあまり深くない。
- ⑦ そこで、先生に相談した。
- ⑧ 悲しみがしだいに深まる。

- ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞
- オ 副詞 カ 連体詞 キ 接続詞 ク 感動詞

①  ②  ③  ④

⑤  ⑥  ⑦  ⑧

3 品詞 次の——線のうち、他と品詞が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ついに大会の日がやってきた。 イ 明日はまた雨になるそうだ。
- ウ 土曜日、または日曜日に行く。 エ ずっと気になっていた。

ヒント

1 単語の分類：自立語とは、単独で文節を作ることができ単語。必ず一文節に一つある。付属語とは、単独で文節を作ることができない単語。一つの文節にないこともあれば、複数あることもある。

言語 9

用言

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 緩やかな曲線。
- ② ジレンマに陥る。
- ③ 錯覚を起こす。
- ④ 有名な絵画を見る。
- ⑤ プールに潜る。
- ⑥ 洗濯物が乾く。
- ⑦ 秀逸な作品。
- ⑧ 昔の習慣を踏襲する。
- ⑨ 畏怖の念を抱く。
- ⑩ 狭いベランダ。
- ⑪ 根拠を問いただす。
- ⑫ 計画を遂行する。
- ⑬ 旅の土産を買う。
- ⑭ 勇気を奮う。
- ⑮ 哀愁が漂う。
- ⑯ ヒタイに汗をかく。
- ⑰ カチのある品。
- ⑱ 食卓をカコム。
- ⑲ ヨウイに解ける問題。
- ⑳ 自分の非をミトメル。
- ㉑ 虫のカンサツ日記。
- ㉒ 責任をオウ。
- ㉓ 変化がハゲシイ。
- ㉔ 時間のタンシユク。
- ㉕ 牛がアバレル。
- ㉖ 世界のハテまで行く。
- ㉗ クンレンを受ける。
- ㉘ トマトが赤くウレル。
- ㉙ 作業をツツケル。
- ㉚ ヒメイを上げる。

1 動詞 次の——線の動詞の活用の種類と活用形を後から一つずつ選び、順に記号で答えなさい。

- ① 疲れたので、木の下で休む。
- ② 部屋に入ったらコートを脱げ。
- ③ 君も来ればいいのに。
- ④ 単調な作業に飽きる。
- ⑤ 自分で起きることができない。
- ⑥ 夕飯までに宿題をしよう。

- ア 五段活用
- イ 上一段活用
- ウ 下一段活用
- エ カ行変格活用
- オ サ行変格活用
- カ 未然形
- キ 連用形
- ク 終止形
- ケ 連体形
- コ 仮定形
- サ 命令形

④	①	⑤	②	⑥	③
<input type="text"/>					
・	・	・	・	・	・
<input type="text"/>					
・	・	・	・	・	・
<input type="text"/>					

2 形容詞・形容動詞 次の文の形容詞に——線、形容動詞に——線を付けなさい。また、その部分の活用形を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 午後から参加することが望ましい。
- ② 明日までに丈夫な布を用意する。
- ③ いつもこれくらい素直ならば、叱られないのに。
- ④ 試合で勝って、とてもうれしかった。
- ⑤ コートを脱げば、やはり寒かろう。

ア 未然形	イ 連用形	ウ 終止形	エ 連体形	オ 仮定形
①	②	③	④	⑤
<input type="text"/>				

ヒント

1 動詞：動詞の活用の種類は、「ナイ」を付けて、未然形にして見分ける。  
例「書かナイ」（ア段なので五段活用）  
2 形容詞：言い切りの形が「い」になる。形容動詞：言い切りの形が「だ・です」になる。

言語 10 付属語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 平和に貢献する。
- ② 天を仰ぐ。
- ③ 不気味な静寂。
- ④ 申し出を拒む。
- ⑤ 上空を旋回する。
- ⑥ 母は勸が鋭い。
- ⑦ 各地の寺を巡る。
- ⑧ 墨で濃淡をつける。
- ⑨ 一斉に問題を解く。
- ⑩ 行動範囲が狭まる。
- ⑪ 思索にふける。
- ⑫ 崇高な理念。
- ⑬ 音楽に陶酔する。
- ⑭ 便宜を図る。
- ⑮ 国家の安泰。
- ⑯ 貝殻をヒロウ。
- ⑰ キビシイ練習。
- ⑱ 道路のカクチョウ。
- ⑲ 見本とコトナル。
- ⑳ 映画のヒヒョウ家。
- ㉑ 耳をウタガウ。
- ㉒ 身をコにして働く。
- ㉓ ケワシイ表情。
- ㉔ 山のイタダキ。
- ㉕ 紅白のマクを垂らす。
- ㉖ 態度をアラタメル。
- ㉗ 指揮ケイトウの乱れ。
- ㉘ 不良品をノゾク。
- ㉙ 因習をダハする。
- ㉚ 牧場の馬がコエル。

ヒント

①助詞：助詞は、活用しない付属語。いろいろな語に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。②助動詞：助動詞は、活用する付属語。主に用言や他の助動詞に付いて、意味を付け加える。

① 助詞 次の——線の助詞の種類を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 三日間だけ開催される。
- ② 雨が降ってきたぞ。
- ③ 毛糸で手袋を編む。
- ④ 歌いながら、歩く。

ア 格助詞 イ 副助詞 ウ 接続助詞 エ 終助詞

①  ②  ③  ④

② 助動詞 次の——線の助動詞の意味を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 駅前も十年前はにぎやかだった。
- ② 弟に自分の部屋を掃除させる。
- ③ ここが父の働いている会社だ。
- ④ 急いでユニフォームに着替えよう。
- ⑤ 今日はまだ春のような陽気だ。
- ⑥ 予算は一万円以内に収まりそうだ。
- ⑦ 田村さんは野球選手になりたいそうだ。
- ⑧ たった今、会場に着いたところだ。

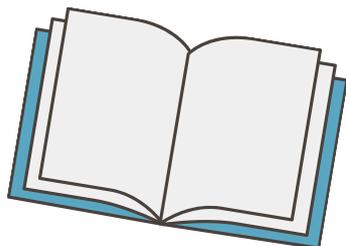
ア 比喻 イ 完了 ウ 使役  
カ 断定 キ 意志 ク 伝聞 ケ 工 様態  
コ 過去

①  ②  ③  ④   
⑤  ⑥  ⑦  ⑧

紙面サンプルはここまでです。  
弊社教材サンプルをご覧いただき  
ありがとうございます。

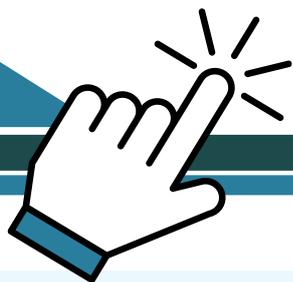
塾・学校の先生限定サイト

Bunri Teachers' Site へのご登録で、  
全ページ版をご覧いただけます。



登録無料で、他にも便利な機能がたくさん！  
ぜひお役立て下さい。

Bunri Teachers' Site  
会員登録はこちら



※ご登録には弊社発行の招待コードが必要です。

### 教材サポート

単元テスト、指導用資料、  
学習サポートアイテムなど  
指導をサポートするコンテンツ



### 最新の教育情報

社会時事問題、高校入試分析、  
教科書採択情報など最新の  
教育に関する情報をお届け



### 各種教材やテストの お問い合わせ・お申込み

生徒さま一人一人に合った教材・  
テスト・デジタルコンテンツを  
ご提案



※Bunri Teachers' Siteは、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

ユーザー登録していただくことで、会員限定の詳細情報をご覧いただくことができます。  
本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。予めご了承ください。

お問い合わせフォーム

招待コード発行や教材の内容・ご購入方法等  
お気軽にお問い合わせ下さい。

資料ご請求フォーム

弊社教材カタログ、教材やセミナーの  
最新情報をお手元にお届けします！